グループホーム川中島

（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念に地域密着24時間365日、すぐやる、必ずやる、出来るまでやる、すべては利用者様のためにとあるように行える事の実践に努めている。	年初に配布される法人経営計画書の中にある法人理念を毎朝、全職員で唱和している。また、事務所内には法人理念、事業所スローガンを掲示し共有と実践に繋げている。職員はそれらの持つ意味を良く理解し日々の支援に取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に重要事項の説明としてホームの取り組み方について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスのため行えず。	開設以来自治会費を納め、市の広報誌も頂き情報を得て参加できる行事には参加し地域の一員として活動している。新型コロナ禍が長引き殆どの地域行事が中止となり残念な状況が続いている。そうした中、初任者研修で研修生の来訪があり傾聴中心に利用者と交流している。例年であれば各種ボランティアの来訪や「オレンジカフェ」への参加、小学生、中学生の来訪があるがコロナ禍が続き中断されている。 ホームでは地域の人々との関係が途切れないようコロナ収束後に向け体制を整備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスのため行えず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催となっている。	新型コロナ禍が長引き書面での開催が続いている。利用状況、運営方針、活動状況、健康管理、事故報告等を書面に纏め、ご意見用紙・返信用封筒と共に、家族代表、地域代表、地区民生委員、市高齢者活躍支援課、地域包括支援センター等の会議参加メンバーに届け、意見をいだき運営の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括との連携は意識し取り組んでいる。	市高齢者活躍支援課には事故報告、新型コロナの状況、体制変更等、報告事項を速やかに行っている。地域包括支援センターとは入居者紹介等、様々な事柄について連携を取っている。介護認定更新調査は調査員が来訪し、家族にも連絡の上、家族の要望も踏まえ職員が対応している。現在、新型コロナ予防のため緊急度のある方のみ行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回の研修会と係会を三か月に一度行い、身体拘束につながる事はないか検討している。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されておりきめ細かな所在確認に心掛けている。帰宅願望の強い利用者が数名いるが職員が寄り添い話を伺ったりホームの周りを散歩したりして納得していただいている。転倒の危惧のある方がおり、家族と相談の上人感センサーを使用している。また、3ヶ月に1回開かれる身体拘束適正化委員会と共に、年2回実施、身体拘束研修会を開催し拘束に対する意識を高め日々の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、研修会を行い、管理者中心に予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社規定の研修行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明をし、改定時には同意書を含め説明対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限り、電話等、お話しをする際には伺うようにしている。	家族の面会は新型コロナの感染警戒レベルに従い、対面、窓越し、リモートなどで行っている。現在、事前に連絡を頂き、玄関先、事務所の窓越しで2名を限度に15分以内の面会を行っている。ホームの様子は毎月発行されるお便り「グループホーム川中島新聞」で知らせ、利用者一人ひとりの状況は担当職員より、毎月、ホームだよりとして職員が手書きの手紙を請求書に同封して家族に届け喜ばれている。更に、必要に応じ管理者が電話で家族と連携を取るようにしている。また、誕生日や母の日、父の日には「花」や「洋服」等のプレゼントが届けられているという。家族会も中止の状態が続いているが、敬老会での再開を待ち望んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼でミニカンファレンスという形で検討し情報共有に努めている。	毎朝のミニカンファレンスに重点を置き、連絡事項、利用者一人ひとりの状況をきめ細かく確認し合い共有と実践に繋げている。また、2ヶ月に1回ユニット会議を行い、利用者一人ひとりの課題検討、業務内容の検討を行っている。合わせて月1回全体研修を行い、各種研修会も行い知識や技術の向上に努めている。キャリアアップ制度があり職員は年2回目標管理シートを用い自己評価を行い、管理者による個人面談も行われ、話し合いを通じモラールアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用し、面談を最低年二回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加や資格所得の取り組みを推進している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の研修会にはリモートで参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したての方には特に安心感を持ってもらえるよう気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネと随時相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅の延長である事を忘れず、温かく接するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会も難しいため、家族には細かく連絡をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要な時は手紙や葉書で対応している。	コロナ禍が長引き友人、知人の面会は自粛しているがコロナ収束後は再開する予定である。携帯電話等を使い家族と連絡を取り合っている方がいる。「コーヒー」「お菓子」「ぬり絵の色鉛筆」等、欲しい物は担当職員が買い求めお渡ししている。理美容は2ヶ月に1回、顔馴染みの訪問美容師が来訪しカットしていただいている。年末には職員が手伝い、手作り年賀状を家族宛てに出し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立度の高い方は特に注意しケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様からの相談には随時のるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情や仕草からその方の意向に気を付けるよう接している。	意思疎通の難しい利用者がいるが、表情や手の動きより意向を受け止めるようにしている。要介護1の方が三分の一強、要介護2の方が数名と、元気な方が多くおり自分の意向を表現できる方が多いことから二者択一も含め、話を伺うことで希望に沿った支援に繋げるようにしている。また、日々の支援の中で気づいた事柄についてはタブレットの中で項目毎に纏め、出勤時に確認し業務に入るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や既往歴は特に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気付いていけるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時のカンファレンスにて必要な事を話し合うようにしている。	職員は2名の利用者を担当し、居室管理、ホーム便りに載せる家族宛のお便りの作成を担当している。家族の希望は面会時や電話で伺い、朝礼時のミニカンファレンスでモニタリングを行い管理者と計画作成担当者がプランの作成を行っている。入居時は2～3ヶ月の暫定プランを作成し、様子を見て6ヶ月の本プラン作成に繋げ、状態が安定していれば1年間のプランに繋げ、状態に変化が見られた時には随時見直し、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子記録はタブレットを使用し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で難しい事もあるが、入浴回数やリモートでの面会等、可能な限りのニーズには対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスのため行えず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診あり。歯科医院との連携も行っている。	利用契約時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月2回の往診で対応している。また、看護師が常駐しており利用者の健康管理をすると共に医師との連携を図り、万全な医療体制を整えている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応し、医師の判断に従い必要に応じ月1回歯科衛生士の来訪があり口の健康にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に適切な連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは密に連絡をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず、看取りの説明を行い、主治医からも早めの意見をもらうようにしている。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明し同意を頂いている。入浴や食事を摂ることが難しくなり終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。新型コロナ禍ではあるが看取り支援中も家族が居室で共に過ごしていただくようにしている。この1年以内に看取りはないが、現管理者になり8名の方の看取りを行い、その都度一人ひとりの看取りマニュアルを作成し話し合いの場を設け意向に沿えるよう取り組んでいる。また、看取り後には振り返りの機会を設け経験を次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修を行っている。AEDもあり。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を実施。	消防署へ届け出の上、年2回防災訓練を行っている。5月には日中想定で脱衣所の暖房器具の出火想定で玄関先までの避難誘導訓練を行っている。合わせて消火器の場所の確認、AEDの使用訓練、水害を想定した避難場所の確認を行っている。11月には夜間想定で利用者の居室の電気ケーブルよりの出火想定での避難誘導と緊急連絡網の伝達訓練、通報訓練を行っている。備蓄については充分とは言えない状況であり、緊急時に備え「レトルト食品」中心にしようと検討中である。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を尊重した言葉掛を行うよう、朝礼や研修で周知している。	言葉遣いについては特に気配りをしスピーチロックにならないよう気を付け、基本的には「です」「ます」を守り、馴れ合いにならないよう距離間を保ち、利用者に合わせ気持ち良く過ごしていただくようにしている。声がけは入居時に希望を聞き、苗字か名前を「さん」付でお呼びしている。また、入室の際にはノック3回と「失礼します」の声掛けを忘れないようにしている。更に、年1回プライバシー保護に関する研修会を行い意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選べるものは選んでいただけるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者様の意向を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行える方は積極的にお手伝いして下さっている。	自力で摂取できる方が三分の二強で、一部介助の方と全介助の方が若干名ずつとなっている。食事形態についてはペースト食など、一人ひとりの状況に合わせ対応している。献立についてはご飯と汁物はホームで調理し、副菜については季節感が加味され味も一定化された配食食材を用い温かい物を提供している。そうした中、行事に合わせ年末には「年越しそば」、正月には「お刺身」「松花堂弁当」等をテイクアウトし楽しんでいる。また、おやつ作りにも力を入れ、利用者の希望を聞き「ホットケーキ」「おやき」「こねつけ」「ニラ煎餅」等を作り楽しんでいる。利用者のお手伝いは「盛り付け」「後片付け」等、力量に合わせ積極的に参加していただいている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量と好みの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からの指導も受けながら取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、ケアをしている。	自立の方が三分の一弱、一部介助の方が半数強、全介助の方が数名という状況である。タブレット端末の排泄表も参考に食事前後の声掛けと、合わせて利用者本人のペースに合わせ様子を見ながら誘導するようにしている。排便については3日間無い場合にコントロールを行い、「お茶」「コーヒー」「ジュース」「牛乳」等で1日1,000cc～1,500ccの水分摂取に取り組みスムーズな排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	OTと相談しながらリハビリを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数にこだわらず、個々に合わせて提供している。	見守りで自立の方は若干名で、一部介助の方が三分の二強、シャワーチェア使用の方が数名という状況で、同性介助希望の方には意向に沿い支援している。基本的に週2回入浴を行っており、希望があれば3回の入浴にも対応している。入浴拒否の方もなく、全利用者が入浴され気持ち良く過ごしている。また、「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方の様子も把握し、良質な睡眠が取れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿ってケアをしている。注意が必要な副作用については薬剤師にも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、塗り絵、コーヒー等、趣味嗜好に合わせて支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスのため行えず。	施設内では自力で歩ける方が多いが、外出時、自力歩行の方が三分の一強、歩行器使用の方が数名、車いす使用の方も三分の一強となっている。新型コロナ禍が続き思うような外出が出来ていないが、回廊式の廊下を歩いたり、天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、中庭のテラスに出て外気浴を楽しんだりしている。そうした中、感染対策を取った上で「茶臼山」「川中島古戦場」「松代城址」等まで季節のお花見を兼ねドライブに出掛けている。新型コロナ収束後には外出計画を立て、以前のように外食も兼ねた外出をしたいという意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は希望あり、所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間作りにつとめ、特に騒音、光り、温度には気を付けている。	平屋造りの当ホームは広い中庭を囲むように回廊式の造りとなっている。中庭には木製の広いベランダにイスとテーブルが設置され寛ぎのスペースとなっている。また、共用部分の小上がりには利用者手作りの「ひな人形」が飾られ、季節感が感じられた。廊下の壁には写真入りでの職員紹介、「縫い物」「ぬり絵」「パズル」「きり絵」等の利用者の作品が数多く飾られ、心地よく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや和室や自室等、過ごしたい環境を大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔なじみのもの、例えば写真、趣味のものや仕事道具等、ご用意することもある。	整理整頓が行き届いた居室には洗面台と大きなクローゼットが完備され暮らし易い造りとなっている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れた箪笥、テーブル、イス、ハンガーラック、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や誕生日会の写真、自分の作品等に囲まれ思い思いの日々を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋で回廊式なため、ある程度安全に過ごしていただけているかと思う。中庭に出る際も段差はなく、気兼ねなく出られるようになっている。		